

# 大学生の健康手帳に関する意識

星井道代 (ほしいみちよ)

(帝京大学 教育学部)

## 【背景】

厚生労働省や健康増進法により、生涯を通じた健康管理を目指し、健康の増進に努めることが国民の責務とされ、健康手帳を活用することが定められてから10年余りの時が経過した。社会全体で個人の健康づくりをサポートするためには、個人に適切な健康情報の提供し、活用することが不可欠であり、その1つの方法として、個人と医療・保健・福祉・教育・職域をとつなぐ健康づくりシステムとしての生涯健康手帳構想の実現に向けて、様々な大学で調査が進められ始めている。これらの流れを受けて学校健康手帳についても関心が高まってきた。学校健康手帳に関しても、出生から成人までの健康情報を記録することができる健康手帳の作成が進められているといった状況がある。しかしながら、学校健康手帳に関する実証研究は殆ど行われていない。そこで今回、大学生の健康手帳に関する意識について調査を行ったので報告する。

## 【方法】

### 1) 調査対象と方法

東京都内A大学 183名を対象に、2012年4月無記名自記式質問紙を用いた調査を行った。

### 2) 調査項目

①属性(性別, 続柄, ), ②これまでの学校での健康手帳・健康カード(以下健康手

帳)の使用及び健康診断結果記録(健診記録)の実態、③大学生用の健康手帳作成についての意識(記録するとよい項目, 記載するとよい情報, 手帳のサイズ, 記入者, パソコンでの書き込み, 使用意志, 学校での具体的な活用方法(自由記述), ④これまで病気やけがに関わる状況, ⑤各種健康手帳の認知度, ⑥生涯健康手帳について, 等)から構成した。

## 【結果】 【考察】 【結論】

大学生用の健康手帳に関し、自分で書き込みを希望する者が多く、また手帳のサイズについてもA4の1/4の大きさを希望する者が多い傾向だった。

「医療機関での検査結果や検査数値を患者にも知らせてもらいか」について希望が多く、「自己の健康状態については、自己で管理したい」、「知っておいて損はない」、「患者が数値を見ても何もわからないが、いつでも情報を見せてくれるという姿勢がみたい」、「数値をもとに自分でインターネットや本等で身体のことを調べることができる」、「数値を見てもよくわからないかもしれないが、数値がわかった方が、ただ危険や安全だといわれるより安心できると思う」、「自分の体だから」というように健康に関して意識が高かった。健康手帳の電子化の導入については時代の流れとともに高い関心がうかがわれたが、そうでない希望もあり、今後導入についてはスマートフォン等の活用を意識した調査項目等も視野に入れるべきことが示唆された。今後も継続して調査・分析を行っていききたい。

E-mail ; michiyo@main.teikyuu-u.sc.jp